

電気通信大学 平成20年度シラバス

授業科目名	言語表現演習		
英文授業科目名	Practice in Expressing Yourself		
開講年度	2008年度	開講年次	2年次
開講学期	前学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法	講義	単位数	2
科目区分	総合文化科目-言語文化科目-言語文化演習科目		
開講学科・専攻	情報通信工学科 情報工学科 電子工学科 量子・物質工学科 知能機械工学科 システム工学科 人間コミュニケーション学科		
担当教官名	宇田川 尚人		
居室	非常勤講師		

公開E-Mail	授業関連Webページ
signifiant@x.email.ne.jp	

<b>【主題および達成目標】</b>
<p><b>主題</b> : 論理的思考の訓練、「他者理解」および「自己理解」の為の言語表現方法の検討、メタメッセージの取り扱い方の解説と訓練等を行う。</p> <p><b>達成目標</b> : 論理的反駁のスキルの習得、真の「他者理解」に必要とされる「自己理解」のあり方への自覚。 相手に明確に自分の考え・感情を伝えるための、思考および表現方法のシェイプアップ。</p>

<b>【前もって履修しておくべき科目】</b>
特になし

<b>【前もって履修しておくことが望ましい科目】</b>
特になし

<b>【教科書等】</b>
特定の教科書は使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

【授業内容とその進め方】

授業内容：

論理的思考の訓練、言語表現の方法論の検討、テーマを決めてのグループ別ディベート（但しこれは受講者が少人数の場合のみ）、メタメッセージの取り扱い方の訓練等を行う。（他者とのコミュニケーションだけではなく、自己とのコミュニケーションの取り方をも扱うことに注意）

題材として扱う主なテーマは学生と相談の上決めるが、今の所以下の内容を候補として考えている。

「悪」の反対は「正義」か？デジタル・クローン時代の物および私のアイデンティティーとは何か？ヨーロッパ的な「他者」理解と日本的な「他者」理解の差とは？「自己の生に対する責任」と「他者の生に対する責任」ではどちらが重いのか？等々。（参考まで）

授業の進め方：

- 1) テーマ毎に簡単な解説・キーポイントの説明を行った後に、
- 2) 学生同士の討論・ディベートを行う。
- 3) その後、問題点を整理しつつ、内容に対する洞察を深めるための解説を行うと同時に、
- 4) 言語表現上の方法論の検討、相手の主張を理解ないし論駁する為に用いられる論理形式、直示的な言表を超えて発せられる「メタメッセージ」の射程の検討を行う。

一応演習であるから、各自が毎回の授業に対して積極的に参加し、課題をこなしていくことを前提とする。

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

評価方法：平常点（リアクションペーパー）＋レポート＋出席率によって総合的（3：5：2）に評価する。

評価基準：2/3以上の出席率と50点以上のレポートの成績を最低基準とする。

【オフィスアワー：授業相談】

適宜相談に応じるが、授業前後等に事前にアポイントを取ることが望ましい。

【学生へのメッセージ】

授業への積極的な参加を期待する。

【その他】

「演習」という性格上、受講希望者が多い場合は人数を制限する場合もある。